

第46回 北九州市福祉有償運送運営協議会 議事録

日 時：令和元年7月8日（月）10：30～12：00

場 所：総合保健福祉センター6階 視聴覚室

出席者：構成員9名（敬称略）

会長：岡田（西南女学院大学）、副会長：貞包（北九州タクシー協会）、塚本（北九州市都市交通政策課）、古賀（北九州市障害福祉団体連絡協議会）、田代（認知症・草の根ネットワーク）、永松（福岡運輸支局）、山田（NPO法人通院介護センター「さわやか」）、児玉（西鉄バス北九州株）、平井（地域福祉推進課）

（随員1名）是久（福岡運輸支局）、加藤（北九州市都市交通政策課）

（事務局）草垣、齋藤（北九州市地域福祉推進課）

※平成31年4月1日の異動により構成員の変更あり。（下線部分）

議題1 変更に関する協議・報告事項について

事務局より、福祉有償運送登録団体（5団体）の変更に関する協議・報告事項について説明を行い、構成員の意見及び承認を得た。

【質疑応答】

（会長）事務局からの説明について、ご意見、ご質問はないか。

（構成員）好楽会の車両台数9台で延べ輸送人数10,640人、一方「さわやか」の車両台数32台で延べ輸送人数2,343人となっているがこの差は何か。

（構成員）「さわやか」は主に透析患者の通院をおこなっている。透析は週3回通院する必要があるため利用者と運転者は近隣の方をマッチングするようにしている。また、病院での滞在時間も長いため、往復で別の運転協力者が送迎することも多い。利用者の高齢化もあり、透析の後はふらつきなど体調不良を抱える方も多いため、公共交通機関の利用は難しく、福祉有償運送を希望する人が多いという状況で運営している。

（構成員）好楽会の利用は透析の通院というわけではないということか。

（構成員）透析の通院もしていると思うが、その他の通院、買い物等もっと目的を広く利用されていると思う。

（事務局）実施団体の運営形態は、輸送だけ行う団体、介護保険事業と福祉有償運送を組み合わせた団体、介護保険事業と介護保険外事業と福祉有償運送を組み合わせている団体などいろいろある。介護保険事業をおこないつつ、福祉有償運送を実施している団体のひとつが好楽会さんや敬愛福祉さんで、利用者のニーズが「さわやか」と異なっていることが差となる。

（構成員）あゆみの会さんが事業廃止された理由が、ボランティアがいなくなったとなっているが、利用していた方のニーズは大丈夫なのか。

（事務局）昨年より休止中。利用者には昨年より他団体を紹介しているというのは聞いています。休止の理由は、運転協力者がいなくなったというよりも、利用者のニ

ーズをマッチングするコーディネーターが体調を崩したためのような。コーディネーターをしながら人の手配が付かない時に運転協力もしていた状況。福祉有償運送において一番の手がかかる部分はマッチング作業といえる。その業務を担うスタッフが体調により休止となっている。あゆみの会は車いすで乗れる等専用車両が多いので稼働しないのは残念に思う。

- (構成員) シルバーひまわりサービスも配車に手間がかかっていると聞いている。配車の仕組みについて工夫の必要があるのではないか。
- (事務局) 配車の仕組みは、タクシー業界の配車のノウハウを参考にできると考えるが差支えなければ参考に教えて欲しい。新聞報道等では、将来的に、規制緩和によりタクシー業界の配車の仕組みを自家用旅客有償輸送等に取り入れていく旨の話もでてきているようだが。
- (構成員) 少し前には、福祉有償運送でも合同配車センターの話もでていた。ただし、団体の運営状況が違うため合同配車は現実的ではないという話になった。
- (構成員) 高齢者の免許返納の影響が、ボランティアにも利用者にも出ているようだ。免許返納でやりがいや生きがいを失くし認知症が進んだ事例もある。
- (構成員) 毎日のように、高齢者の事故報道があっっていることに胸を痛めている。
- (構成員) タクシー運転手の状況はどうか。
- (構成員) タクシー業界でも非常に厳しい。平均年齢が65歳となっている。東京は辛うじて年齢層が若いといえるが、他の地域は厳しい状況といえる。年々平均年齢が上昇している。年齢が上がると夜間目が見えにくい等身体的に厳しくなってくる。地方では夜間運行を取りやめるところがあり課題となっている。
- (構成員) バス業界はどうか。
- (構成員) バス業界でも、新規で入る人材が少なく、既存の人材の年齢があがっている状況。現在は、時短勤務ではあるが70歳まで運転者が在籍している。
- (構成員) 運輸局は、この状況をどう捉えているか
- (構成員) トラック運転者等も人手不足。運転者のみならず整備事業でも人材は不足している。現在、全国的に高等学校へ運送業界への就職依頼に行っているが、非常に厳しい。
- (構成員) 5年後が心配になる状況。
- (構成員) 5~10年後には、自動運転などの技術がもっと確立されていると考えられるがその過渡期が心配だ。
- (構成員) 高齢化に社会がついていっていない。
- (構成員) あゆみの会が廃止したことは大きい。あゆみの会は車いすを中心とする身体障害者の移送団体であったため、他団体を紹介された利用者が本当に移送のすべを確保できたのか疑問である。車いすで乗降できる車両をもっているところは数団体しかいないため、利用できなくなっている人はたくさんいると思う。利用できるはずの介護タクシーも夜間に運行しない状況がある。また、介護タクシーの事業者自体が減っていると聞いており、状況は厳しい。このような状況の中では移動についての施策は喫緊の課題だと思われる。UDタクシーの拡充や、介護タクシーのサービスの充実、既存のタクシーを福祉的利用できるようにしていくなどを今後考えていく必要がある。北九州市の公共交通全般について研究会や検討会を立ち上げて方針をだしてほしい。

(構成員) 議会では、高齢者移送についておでかけ交通の話をするが、今後は複数の部局と連携し検討をする時期にきていると考えている。福祉有償運送の需要と供給等可能性について確認したい。

(事務局) 本年3月に新規団体の申請があった。新規団体の参入の際には自治体側としては、移動制約者の数、その地域の公共交通機関の充足率をもって必要性を検討するようになっているが、実際には参考になるような良質な統計がなく推定の域を出ない。北九州市内では、現在タクシーは法人個人合わせて3000台運行しており、福祉有償運送が100台となっている。数の把握として苦慮するのが移動制約者だが、要介護度を持っている方、身体障害者含め障害手帳を所持している人の数が6万人～8万人。このなかには在宅も入所者も含まれている。この先が見えにくくなってくるが、移動のニーズがどのように消化されているかが把握できていないため、本年3月の新規団体申請の際にも、状況から『移動について充足していない。福祉有償運送は飽和状態ではない。』と判断した。もう一つの考え方が公共交通機関との棲み分けとなるが、これも現在は明確ではなく適正の判断がつきづらいが、福祉有償運送は感覚的には足りてないといえる。

時々、地域から問合せがあるのは、地域での買い物の仕組みづくりで無償と有償の境目である。無償であれば登録は不要であるが、全くの無償では利用者が使いにくいいため、謝礼を渡すということになると有償運送となり登録が必要となる。そこで福祉有償運送の枠組みを説明するとハードルが高いという言葉が返ってくる。このような状況から地域においてニーズはあると思われるが移送の形態で何が適切なのかは判断が難しい。

(構成員) ニーズの捉え方も、車いすなので移動が難しいという局所的ではなく、外にでたいという気持ちに沿うような、人生100年時代を元気にいるためにどうするかという大局的な考えをしてほしい。考え方や目標がぼんやりしているため当事者も迷っている状態。関係部署間で合意のとれた指標を示してほしい。

(事務局) 免許返納者は、運転に不安があるものの、福祉有償運送の利用要件である要介護認定者と全くイコールとは考えにくい。免許返納者が増えれば、福祉有償運送をもっと増やせばよいということではないと考える。年齢相応に元気な方となると福祉有償運送には該当しないのでは。

(構成員) 今まで自家用車を利用していた方に、公共交通機関の乗り方がわからないという方が多い。公共交通機関の利用促進のためのわかりやすい仕掛けを考えてほしい。

(構成員) バスでは65歳以上で利用できるフリーパスなどを導入している。

(構成員) タクシー会社でも、定期とフリーパスを実施している。先日、エリア外からの相談があったが、営業的に成り立たず断ったということがあった。高齢者の移動で難しいのは値段の話だ。経済的な問題が一番で解決が難しいが、複数のサービスメニューを提案し、利用者が選択できるようにしていきたいと考えている。

(構成員) シルバーひまわりサービスの料金がわかりにくい。確認をしてほしい。

(会長) 他に意見はないか。実地報告について了承いただけるか。

(了承)

議題2 実施団体年間報告について

(会長) 事務局からの報告について、意見があればお願いしたい。

(構成員) 延べ輸送人数が昨年より4000人増えている。現在タクシーで行っているおでかけ交通は利用者が年々減り開始時の半分程度9万人の利用となっている。福祉有償運送が増えれば、おでかけ交通が減ってくるのではないか。今後、おでかけ交通のPRをしていく予定である。福祉有償運送については市民への周知が行き届いていないのでは。PRについてはどう考えているか。

(事務局) 包括支援センターには冊子等を配布するなど情報提供を行っている。直接問合せがある場合にご案内することもある。市政だよりで年1回案内しているため、掲載後には問合せがある。

(構成員) 当団体へ、ケアマネ等から移送サービスについての問い合わせが頻繁にある。その場合、介護タクシーも福祉有償運送も紹介できるようにしている。ところが福祉有償運送を依頼したが断られた話もかなり多くほとんど断られた状況。ひとつは車いすの乗降ができない車両であるという理由もあるが、いっばいで受けられないというのが主な理由である。余裕がありそうなシルバーひまわりサービスは、時間等利用要件が厳しくニーズと合わず利用できないと聞いている。

(構成員) 実績の数字だけみると、シルバーひまわりサービスの利用については、もっと工夫ができるのではないかと思える。

(構成員) 当団体にあった依頼を、ボランティアの確保ができず何件も断っている。透析の開始時間が早いため、シルバーひまわりサービスの開始時間と合わず利用できない状況がある。時間に融通をきかせてくれるともっと利用できるが。

(会長) 他に意見はないか。団体の収支決算書の報償費の考え方について確認したい。ガソリン代はどうなっているのか。

(事務局) 団体によって考え方が違うが、ガソリン代を報償費に込みで運転者に渡しているところが多い。

(構成員) 当団体も、一部事務費を除いた料金を、ガソリン代込みということで渡している。

(了承)

(会長) 他に意見はないか。これで協議会を終了する。

次回運営協議会は11月開催予定。